

写真2. 危害・危険事例の不具合の原因と推定される箇所として比較的多い箇所



前ホーク及びハンドルの構造に関するもの

【事例1】

息子が自転車で走行中、突然、前ホークが外れ、前車輪が脱落。息子は両膝などに大けがをした。販売店は責任を認めず不満。

(2010年5月受付、被害者：神奈川県、10歳代、男性)

【事例2】

高額なスポーツタイプの自転車のハンドルの締め付けが緩かったため、購入して2日目に息子が左手首を骨折した。補償して欲しい。

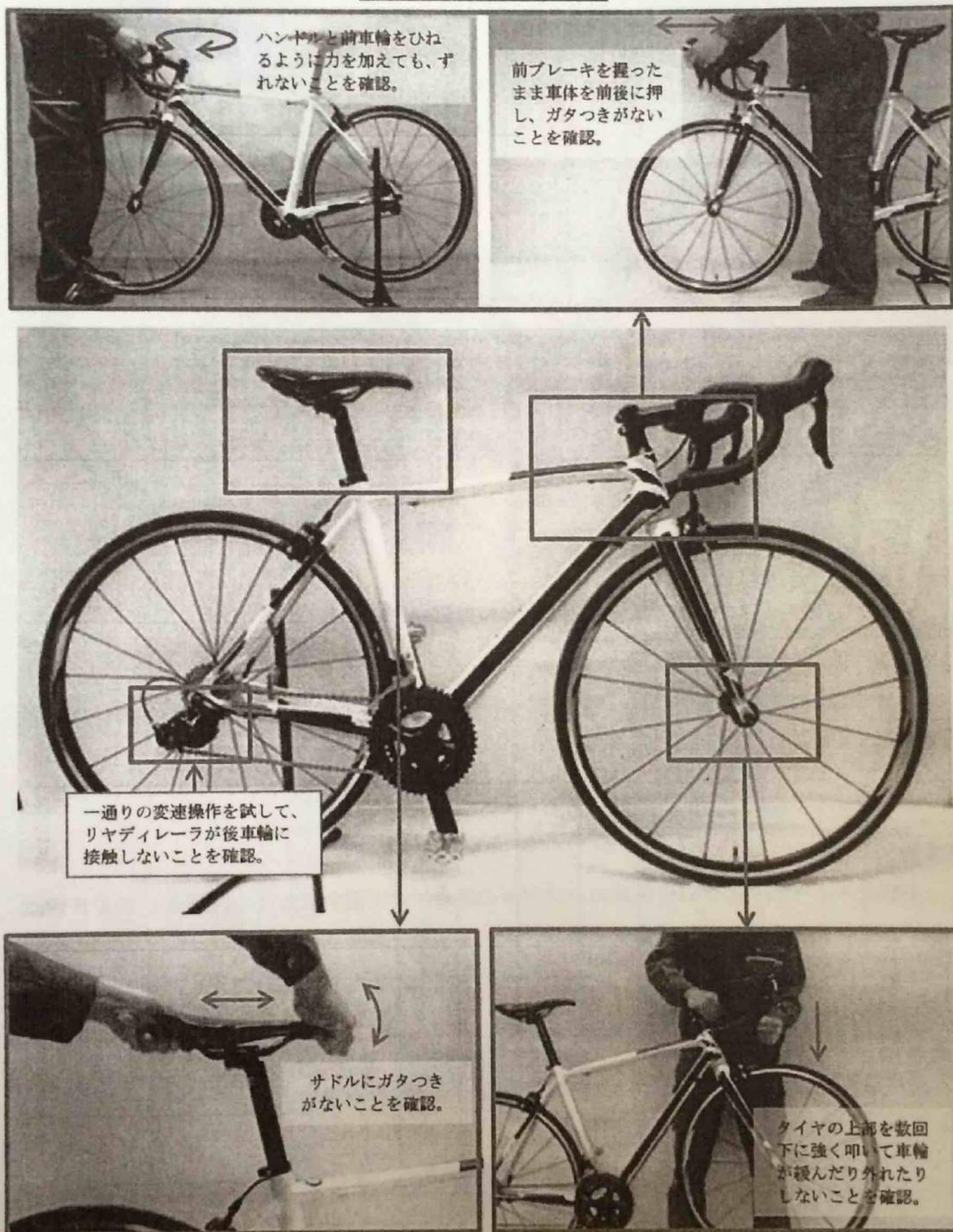
(2013年5月受付、被害者：神奈川県、10歳代、男性)

【事例3】

競技用自転車で山道を走行中に、自転車のカーボン製の前ホークが突如、両サイド折れてしまい、大けがをした。

(2014年12月受付、被害者：佐賀県、20歳代、男性)

写真 23. 各部の点検方法



自転車事故の損傷箇所

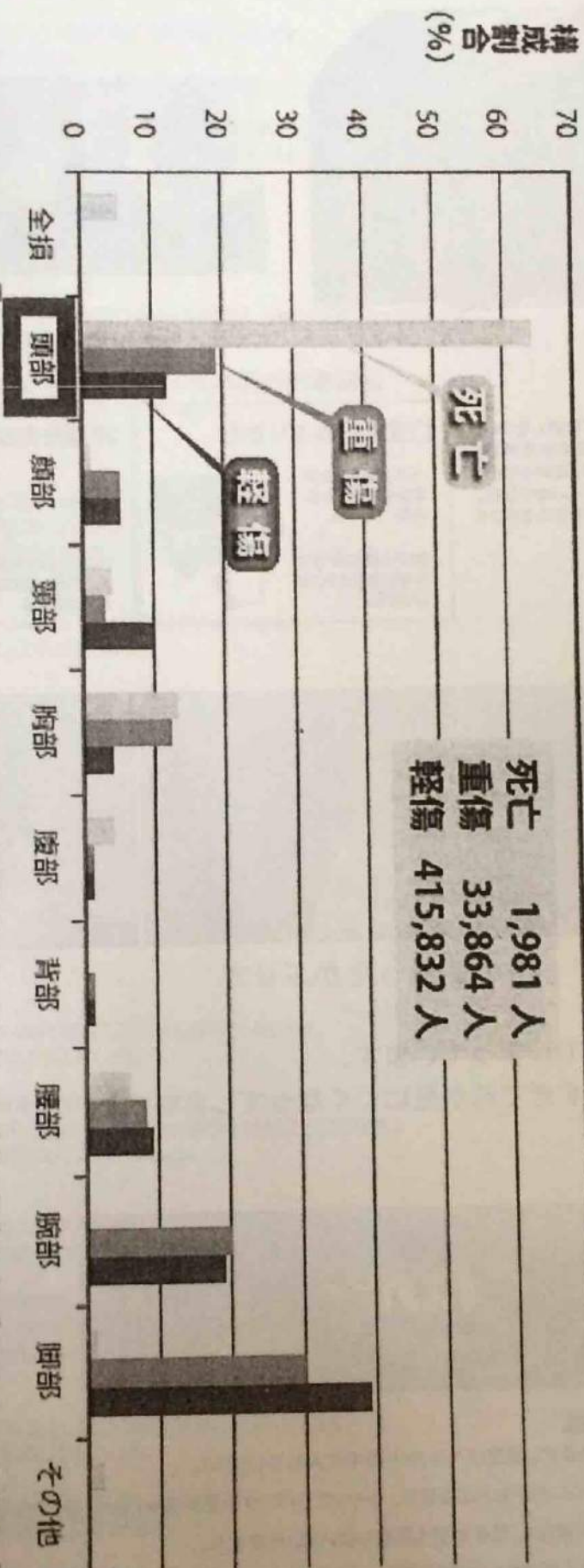
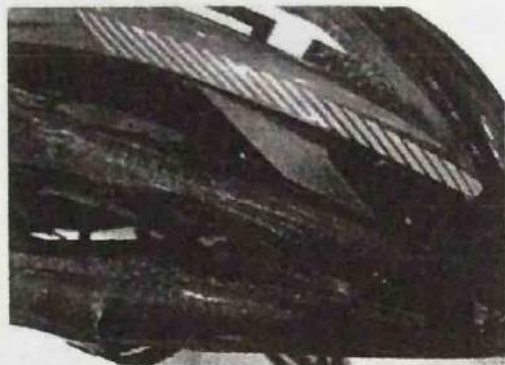


図5 / 自転車乗用者の損傷程度別 損傷主部位の構成割合 [H21～23年]

(構成割合) = (各損傷主部位損傷者数) / (損傷者数) × 100



自転車用ヘルメット

ヘルメットは正しく装着しないと、ヘルメット本来の機能が発揮できない場合があります。適正なサイズのヘルメットを選び、しっかりとあごひもを締めて、バイシクルライフを楽しみましょう。

◎ 正しいかぶりかた

ヘルメットの先がまゆ毛のすぐ上にある。

前から横にかけて水平になるようにかぶります。



× 誤ったかぶりかた

ヘルメットの先が上を向き、前面部が見えている。

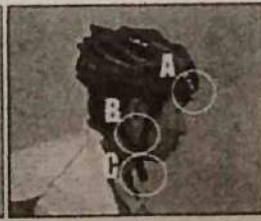


よくあるヘルメットの間違ったかぶり方

中央：OK

左：おでこが出てしまっています。

右：深くかぶりすぎで前が見にくくなってしまいます。



ヘルメットのアゴ紐の調整

OA: 前髪が出てしまっています。前髪はヘルメットの中に入れてください。

前髪の長い方は、ヘルメットをかぶる前に、キャップやバンダナをかぶっておくと良いでしょう。

OB: ストラップは長さだけではなく、耳の位置も調整しないとイケません。

耳の前側と後ろ側から出てきたストラップが、丁度耳の下側でクロスするような位置に調整してください。

OC: ちょっとアゴヒモが長めです。この状態で口を大きく開けたとしても、余裕の長さです。

少しずつ短くして、自分にとって最適な長さにしてください。